

特集

新春ごあいさつ



会頭

株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO

堀場 厚

〝ほんまもん〟を結わう

ー変革と挑戦ー

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今世界ではAI・人工知能をはじめとする技術革新や新興国の市場拡大が進み、日本でも賃上げや投資の動きから、経済に前向きな流れが生まれています。この追い風を力に変え、京都は文化と産業の融合によって、「変革と挑戦」を進める一年にしてまいりたいと考えています。

昨年を振り返ると、国内では連立政権の枠組みの変化、史上初の女性首相の誕生、日経平均株価は最高値更新等、新たな時代の到来を感じさせる出来事が続きました。一方で、米国による関税措置や深刻な人手不足、原材料・燃料価格の高騰など、企業の経営に影響を及ぼす課題も顕在化しています。しかし、こうした逆境こそ京都企業の底力を発揮し、イノベーションを推し進めるチャンスだと捉えています。

京都商工会議所では、昨年11月より「ほんまもん」を結わう「変革と挑戦」をスローガンに掲げました。京都には文化・学術・産業が有機的に交わる、他の地域にはない

強みがあります。この豊かな土壌から、新しい価値を創り

出そうという動きが芽吹いており、今こそ「伝統」と「革新」が両立する京都の底力を発揮する時と考えます。京都企業がそれぞれが培ってきた唯一無二の価値を商工会議所が結び合わせ、「推進力」に変えて、変化の激しい社会経済の中でも力強く成長できるよう後押ししてまいります。

さらに京都の将来を見据え、経済界・大学・行政が協働し、重要政策課題について議論する「協議会」を設置し、経済活動の基盤となるインフラ整備や若者の流出防止、観光課題への対応等の諸課題に取り組んでまいります。

令和8年は、60年に一度の勢いに満ちた躍動感ある、そして新しいこころの挑戦に最適な年と言われています。京都商工会議所は、地域と企業、人と人をつなぎ、京都に息づく「ほんまもん」の価値を結び合わせ、未来へバトンをつないでいく一年にしたいと考えております。皆さまの「一層のご支援」と協力を心からお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



副会頭
京セウ株式会社 代表取締役会長
山口 悟郎

過去の遺産を活かし、新たな未来を切り拓く

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は高市政権が誕生し、激動の世界情勢の中で、いかに政治を安定させ、経済を成長軌道に乗せるか、その動向に大きな注目が集まっています。また大阪、関西万博には、国内外から2500万人超が訪れ、盛況のうちに幕を閉じました。京都では、万博の遺産を有効に活用すること、インバウンド増に伴う変化に真正面から取り組むことが求められます。世界のニーズを取り込んで京都経済の活性化に着実につなげると同時に、長期的視野に立ったインフラ整備やルール策定の方針を打ち出す必要があります。

そのためにも、京都に暮らす人々の生活といた本質に立ち寄り、さまざまな社会実験や最善案を検証しながら、新たな街づくりの青写真を描いていかなければなりません。そのような未来を切り拓く礎を築く一年となるよう、微力ながら副会頭として尽力してまいります。皆様の一層のご理解とご協力を願ひ申し上げます。



副会頭
株式会社京都フナシヤグループ 代表取締役社長
土井 伸宏

駆け抜ける一年に

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年のわが国経済は、供給制約、人手不足、円安等の諸要因を背景に物価上昇が続きました。多くの企業にとって、まだ慣れないインフレ経済の体感温度は熱く、丁度よい合いの良い適温とは言えないのではないかと思います。それだけに適切な政策が待たれますが、一方で、他者を持します。私たちは自身の力で局面を開いて、持続的な成長につなげていく、不断の努力も不可欠です。今年の干支である午（馬）は、類まれな体温調節能力を持つゆえに、速く長く走ることができるといえます。自社のコアコンピタスや潜在能力を存分に発揮することで、インフレを乗り越えて、「千里の馬」の如く、一年を通じて駆け抜けたものであります。

引き続き副会頭として尽力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



副会頭
株式会社トーセ 代表取締役会長兼 CEO
齋藤 茂

働いて働いて働いて働いて働いて

謹んで新春をお祝い申し上げます。

昨年は、女性初となる高市総理が誕生しました。「働いて働いて働いて働いて働いて働いて」の言葉通り、スタートから多くの事に取り組み、少し勢いを欠いていた日本に活力を与えてくれました。

今、日本の一番の問題は少子化だと思います。人口が減って繁栄する国はほとんどありません。国に活力があれば産業も発展し、繁栄とともに人口も増えると思います。その意味でも高市政権にはリーダーシップを発揮していただいて、活力あふれる日本に導いてほしいと思っています。

また、AIがブームの段階から、徐々に生活に浸透してきました。アメリカではターゲット計画に約80兆円という、巨額の投資が見込まれています。このようなダイナミックな世界の動きに日本も追従していかなければなりません。今年も良い年にしていきましょう！



副会頭
学校法人大和学園 理事長
田中 誠二

文化と産業が響き合う、京都の未来へ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

千年の都、京都は今、文化と産業が響き合い、豊かな創造力を生み出す都市として、世界から高い期待が寄せられています。地域経済の基盤を成す中小企業の果敢な挑戦、そして多彩な文化観光の営みが、その躍動の原動力であると考へます。本年は、堀場会頭のスロガン「ほんまもんを結ぶ、変革と挑戦」の下、京都経済の要となる中小企業の活力強化と、京都ならではの知恵と洗練された美意識を未来につなぐ取り組みを一段と加速してまいります。

DX・AIの戦略的活用、人財多様化の支援、産学公の連携によるイノベーション創出等、時代の変化に呼応しながら京都固有の価値を磨き高めてまいります。さらには、地域と調和する文化観光の深化にも心血を注いでまいります。本年も、皆様とともに京都経済の未来を切り拓けますことを大きな喜びとし、変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



副会頭
オムロン株式会社 取締役会長 取締役会議長
山田 義仁

京都から世界へ、新たな価値創造に挑む一年

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は大阪・関西万博が大いに盛り上がり、京都においても多くの来訪者を迎え、地域経済に活力がもたらされました。一方で、オーバーツーリズムが顕在化し、住民の生活環境や観光資源を守るための持続可能な受け入れ体制の整備が急務となっています。また、深刻化する人手不足や原材料・エネルギー価格の高止まり、AI・デジタル化の進展等、企業経営を取り巻く環境も大きく変化しています。

こうした中、京都商工会議所は昨年11月13日より堀場会頭を筆頭とする新体制が発足いたしました。会員企業のデジタル化や人材育成を一層強化することで、「ほんまもんを生み出し、京都から世界へ届ける」という使命のもと、新体制・一丸となって京都の未来を切り拓いてまいります。私も副会頭として堀場会頭をしっかりと支え、努めてまいります。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



副会頭
村田機械株式会社 代表取締役社長
村田 大介

強くしなやかに変化し、成長しよう

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

関税に揺れ万博で盛り上がった昨年に続いて今年もまた、分断による混乱とつながりの誕生が混在する、良くも悪くも賑やかな年になりそうです。政治経済の変動や天災人災がもたらす衝撃に対して、強くしなやかに対応できるレジリエンスが、個人にも企業にも社会にも求められていると感じます。

インフレも大きな課題の一つになるでしょう。国の政治家も対症療法としての支援や援助を訴えますが、根本治療でインフレと闘う姿勢は、速く1970年代に置き去られたかのようにです。縮小経済における悪性のインフレを防ぐには、供給サイドがつかずすることが大切です。そこには、私たち産業界が新しい知恵や技術で貢献できる機会がたくさんあるはずです。

今年は知事選の年でもあります。激動する環境の中で、持続的に地に足のついた府政を願っています。



副会頭
京都青果合同株式会社 代表取締役社長兼 グループ CEO
内田 隆

京都経済を元気に

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年11月の議員総会において副会頭を拝命いたしました。またまた若輩者で力不足ではありますが、極めて多忙の中、大役をお引き受けになった堀場会頭をお支えすべく、京都経済発展のために微力ながら尽力してまいります。

日本では長年デフレが続き、他国より遅れてインフレの時代に今、突入しています。結果、円安も重なり物価が高騰、人々の生活が苦しんでいます。

また、長時間労働を規制する「働き方改革」「人手不足」「デジタル化」「AIの進化」と企業経営者が直面する課題は多く、特に中小企業への対応に頭を悩ませています。言うまでもなく、企業の大半は中小企業で、その中小企業を支えるのが商工会議所の役割だと認識しております。食と農を守り京都経済が元気になるよう、「変革と挑戦」の志をもち努力してまいります。



副会頭
NISHIHARA株式会社 代表取締役社長 最高経営責任者
鈴木 順也

京都の価値を一層発信しよう

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

このたび副会頭を拝命いたしました。身の引き締まる思いとともに、地域経済のさらなる発展に微力ながら尽力しました。身の引き締まる思いとともに、地域経済のさらなる発展に微力ながら尽力しました。身の引き締まる思いとともに、地域経済のさらなる発展に微力ながら尽力しました。

昨年は、アメリカの相互関税や地政学的緊張が世界経済やサプライチェーンに影響を及ぼし、不透明感が続きました。しかし、こうした状況下においても、観光需要の拡大やデジタル技術を活用した業務革新、持続可能な社会づくりの挑戦等、未来を見据えた取り組みが着実に進められました。大阪・関西万博を契機に京都の魅力が国内外に広く発信されたことも心強い出来事でした。

本年は、堀場会頭が提唱される「ほんまもんを軸に、伝統と革新を結び、新たな価値を創出し、地域経済の活力向上に努めてまいります。

今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

小売商業部会



部会長
株式会社大垣書店 代表取締役会長
大垣 守弘

部会員相互の結束を二層強め、実りある交流と情報共有を通じて、確かな事業発展につながる活動を力強く推進してまいります。厳しい環境に正面から向き合い、伝統ある京都の経済と地域の未来を切り拓く部会運営に尽力いたします。

電機・機械金属部会



部会長
株式会社SCREENホールディングス 特別顧問
垣内 永次

国際政治や経済の大きな波は、京都企業も避けられません。米中2強時代への流れや、AI、DXの実装が進む社会において、持続的な成長を実現するために、自らの強みを磨き、したたかに柔軟な経営を目指し、会員企業の皆様と共に切磋琢磨してまいります。

卸売商業部会



部会長
小川珈琲株式会社 代表取締役会長
小川 秀明

本年度より部会長を拝命いたしました。歴代部会長のご尽力を受け継ぎ、皆様のお力添えを賜りつつ職務に精励いたします。卸売商業部会として、社会情勢や環境問題の変化に迅速に対応し、情報を収集・共有してまいります。今後ともご指導・鞭撻のほどお願い申し上げます。

建設産業部会



部会長
株式会社ミラノ工務店 代表取締役社長
小崎 学

近年、豪雨や台風、地震等による大規模な自然災害が各地で激甚化しています。今後も府民・市民の安全・安心を確保する地域の守り手として、社会的使命を果たすと共に、20年、30年先の京都の将来構想にも積極的に取り組んでまいります。

繊維・染織部会



部会長
久保商事株式会社 取締役会長
久保 善昭

物価高や需要の減退等、繊維・染織業界を取り巻く状況が厳しい中、環境の変化に柔軟に対応して行く事がますます重要になってきます。今年も部会員の皆様と力を合わせ、希望を持って前に進んで行きたいと思っております。

食品・名産部会



部会長
株式会社依屋吉富 代表取締役社長
石原 義清

続けていくべき伝統と時代を見据えたチャレンジの元、三期目の部会長を迎えることとなりました。食のつどいは令和八年開催で十八回目となり、次世代の食や名産品を担う料理人達や芸術家を巻き込んだ部会の大きな事業となりました。私たち自身も研鑽を積んでいくことで、いい継承となるよう願っております。

化学部会



部会長
日本新薬株式会社 代表取締役会長
前川 重信

社会の不確実性が高まり、これまでの常識が通用しない時代には、変革と挑戦が不可欠です。わくわくするベンチャースピリットを胸に、部会員の自由な発想と希望がさらに交わり深化するような部会活動を目指してまいります。

金融部会



部会長
京都中央信用金庫 会長
白波瀬 誠

近年、デジタル化やグリーン転換が進む一方、人口動態の変化により地域価値の再定義が求められております。京都の町が持つ、ほんまもん（ほんまもん）の価値を次代へ継承、そして発展させていくべく、時代の変化を恐れず常に挑戦を続けてまいります。

生活産業製造部会



部会長
関西電力株式会社 京都支社 執行役員 京都支社長
奥戸 義昌

今期の部会長を拝命いたしました。まだ京都での経験も少なく、誠に微力ではございますが、前部会長の鈴木副会頭や部会の皆様とご一緒に、活発な部会活動を行うべく全力を尽くしてまいりますので、何卒宜しくお願いいたします。

文化・情報部会



部会長
株式会社淡文社 取締役会長
納屋 嘉人

当部会は、業種を越えて文化を深く理解し愛する方々の集まりです。文化庁の京都移転も定着し、京都の伝統文化や行事とも連携した活動が日々行われており、当部会としても、この好機に京都から全国に文化の発信をして行く所存です。

観光・運輸部会



部会長
一般社団法人地域企業振興協会 理事長
中野 雄介

大阪・関西万博でより深まった各国との関係をしかりと京都観光つなげられるよう、また、日本人が改めて京都の良さを実感できるよう、暮らしと観光の共生をはかりつつ、さらなる観光運輸産業の振興のため本年も活動していきます。

サービス産業部会



部会長
ワタキョーホールディングス株式会社 代表取締役会長
安道 光二

サービス産業部会は、発足から20年が経ちました。激動の時代を乗り越えて今後も発展し続けるために、今年も情報の共有化をテーマに、部会員の皆様にとつて有益な取り組みを検討し実施していく所存です。本年もどうぞよろしくお願い致します。